

みなとタウンフォーラム・第3グループ 環境・リサイクル分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第3グループ [メンバー]

加生 武秀	加生 美佐保	高木 是
中井 耕治	半澤 千佳子	湯原 信一

※メンバーは五十音順



提言にあたって

第3グループ【環境・リサイクル分野】

私たち第3グループは、環境・リサイクル分野について、これまでの港区の環境行政や環境を取り巻く社会の動向等を踏まえ、「ごみ問題・資源循環」、「緑と水辺の保全・創出」、「気候変動への適応」の3テーマについて、全8回のグループ会議を開催し、事業提言について議論を重ねてきました。

「ごみ問題・資源循環」については、近年世界的に注目を集めている海洋プラスチックごみ問題や、令和元年10月に施行された食品ロス削減推進法、令和2年7月から実施されるレジ袋完全有料化など、区民にとっても非常に関心の高い、生活に密着したテーマです。区民、事業者に加え、国内外から多くの方が訪れる港区において、全ての人が“分かりやすく、取り組みやすい”ごみの減量、分別、資源化の方策を議論しました。

「緑と水辺の保全・創出」については、都市における暮らしの豊かさ、心地良さの向上に資する緑や水辺を、区民にとって“より身近に、より充実したものにする”ための方策について議論しました。

「気候変動への適応」については、平成30年6月に気候変動適応法が公布され、国の気候変動適応計画が策定されたことを受け

て、港区においても、従来から取り組んでいる緩和策に加えて、適応策にも取り組むことが重要であると考えます。そこで、適応に関する7分野のうち、区民、事業者にとってより身近な、自然災害、安全、都市生活の分野について、“ソフト面／ハード面からの備え”を議論しました。

港区は、国内だけでなく、世界からも注目される日本を代表する都市の一つであり、裏返せば、宣伝・プロモーション効果が非常に高いと言えます。港区における取組は、区民、事業者の暮らしを変えるだけでなく、国内外の暮らしや事業活動にも大きな影響を与えることが期待できます。

これを踏まえ、昨今地球レベルで大きな課題・取組となっている持続可能な開発目標「SDGs」に掲げられたゴール（特に、No.7,11,12,13,14,15,17）の達成への貢献を意識しながら議論を進め、第3グループの提言として取りまとめました。

この提言が、令和3（2021）年度からの次期港区基本計画に反映され、港区が、環境面だけでなく、社会面、経済面からも持続可能なまちとなる重要な分岐点（ターニングポイント）となることを期待します。

提言の体系

テーマ・将来像	取組の方向性	具体的な事業
テーマ1 ごみ問題・資源循環 「分かりやすい分別でごみが減るみなとの資源循環」		
減らす	(1)事業系ごみの更なる削減に取り組む	①事業系ごみ削減の促進 ②食品ロス削減の推進
	(2)プラスチックと上手に付き合う文化を醸成する	③プラスチック使用の削減◎
	(3)家庭系ごみを減らす意識を向上させる	④家庭系ごみ削減の促進
分別する	(4)分別方法をより分かりやすくする	⑤ごみ分別の分かりやすさの向上◎
	(5)「つくる」段階から「分ける」を意識する	⑥消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造
資源化する	(6)リユース家具の取組を進化させる	⑦リユース家具の取組強化
	(7)リユース・リサイクルをもっと身近にする	⑧まちなかりユーススペースの設置
		⑨資源回収機会の増加
テーマ2 緑と水辺の保全・創出 「心地良さや豊かさを感じられるみなとの緑と水辺」		
人にも生きものにもやさしい“緑”を育む	(1)区内の様々な場所で緑を増やす	①まちの緑化推進◎
	(2)区民・事業者・区が一体となって緑を守り、育てる	②区民・事業者との連携・協働による緑の管理体制の構築
	(3)生物多様性を保全する	③生物多様性の保全
みなとの“水辺”と親しむ	(4)水辺の散歩道等を活用して水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）	④親水エリアの設定・構築運用◎
	(5)「泳げる海、お台場」を実現する	⑤「泳げる海、お台場」の推進
	(6)水の健全な循環をつくる	⑥雨水浸透施設の整備

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ・将来像	取組の方向性	具体的な事業
テーマ3 気候変動への適応 「気候変動に合わせた暮らしを実現するみなとの人とまち」		
気候変動に備える意識を高める（ソフト面）	(1)気候変動と適応策に関する区民の理解を深め、適応力を高める	①気候変動に関する調査と適応策の検討、情報発信
	(2)これまで経験したことのない大雨等の災害に備える	②行動につながる、使いやすいハザードマップへの更新
	(3)熱中症リスクの高まりを意識し、適切な適応策を選択できる力をつける	③区内における暑さ指数の計測・情報発信◎ ④熱中症対策に関する情報発信の充実 ⑤高齢者の熱中症死亡リスクの軽減
気候変動に耐える都市環境をつくる（ハード面）	(4)「風／水／緑」を利用してまちを涼しくする	⑥運河の水等を利用したクールチャンネルストリートの整備
	(5)取組効果を検証し、区内外に適応策の情報を発信する	⑦緑のアーケードの整備 ⑧「みなとクールスポット」の整備、効果検証◎

◎印のついた事業は、優先的・重点的に取り組んでいただきたい事業です。

テーマ① ごみ問題・資源循環

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニケーション分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

分かりやすい分別でごみが減るみなとの資源循環

- 区民だけでなく、在勤者や在学生、国内外からの多くの来街者など、多様な人が集う港区において、誰もが分かりやすく、取り組みやすいごみ減量と資源循環システムを追求し、一人ひとりの環境意識を向上させ、環境負荷の少ない持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- 海洋プラスチックごみによる海洋汚染の認識が薄く、プラスチック製品との付き合い方を考える必要がある。
- 家庭系ごみの更なる削減に向け、ちゅうかいるい厨芥類のごみを減らす必要がある。
- ごみの適切で確実な分別ができていない。
- 来街者・観光客も多く、公共空間のごみ出し基準が分かりにくい。

取組の方向性

【減らす】

- 事業系ごみの更なる削減に取り組む。
- プラスチックと上手に付き合う文化を醸成する。
- 家庭系ごみを減らす意識を向上させる。

【分別する】

- 分別方法をより分かりやすくする。
- 「つくる」段階から「分ける」を意識する。

【資源化する】

- リユース家具の取組を進化させる。
- リユース・リサイクルをもっと身近にする。

具体的な事業

【減らす】

①事業系ごみ削減の促進(1)

- 事業系ごみの削減に関する優良事例を収集し、様々な媒体を活用するなどして、事業者への情報提供を更に充実・強化する。

②食品ロス削減の推進(1)

- 食品ロス削減のため、「食べきり協力店」のPRの更なる強化につながる手法を検討する。

③プラスチック使用の削減(2)

- 区民のマイボトル利用促進に向け、ペットボトルの自動販売機を削減し、公共施設へのウォータースタンド等の給水器の設置を推進する。
- 区民向けセミナー・勉強会の開催を継続し、海洋プラスチックごみ問題やその発生要因・生物への影響等を区民に情報提供する。

④家庭系ごみ削減の促進(3)

- ごみ排出袋の有料化を検討する。
- 3キロ運動の効果検証を行い、検証結果を踏まえた取組を推進する。
- 分別の際に留意すべきこと（資源プラスチックは汚れを落としてください等）について周知する。

【分別する】

⑤ごみ分別の分かりやすさの向上(4)

- 区有施設に設置しているごみ箱の種類、デザイン、色の統一（例 オリンピックカラー：可燃＝赤、不燃＝黒、PET＝緑、資源プラ＝橙、かん＝青、びん＝黄）、ピクトグラムの表示など、分かりやすさの向上を図る。
- 商業施設やその他民間施設のごみ分別にも取組を広める。

⑥消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造(5)

- スーパーや食品等製造業者と情報を共有し、消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造や取組について、国等に対して要望する。

【資源化する】

⑦リユース家具の取組強化(6)

- 様々な情報媒体を活用し、リユース家具の取組をPRする。

⑧まちなかりユーススペースの設置(7)

- リユースを促進するため、図書館や保育園の施設内に「ブックシェア本棚」や「おもちゃシェアボックス」を設置する。
- 町会・自治会等のリユース活動を積極的に支援する。

⑨資源回収機会の増加(7)

- 資源を持ち込める場所や機会の増加について、引き続き検討する。
- 港区資源化センターの取組について、YouTube等の多様な手法で発信する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

【減らす】

- ウォータースタンド等の給水器を利用する。
- 食べきり協力店を積極的に利用する。

【分別する】

- 分かりやすいデザイン、色、ピクトグラムを用いたごみ分別の港区ルールを行政と一緒に検討・作成し、区内に広く普及させ、分別を徹底する。
- 消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器を製造する(使用する)。

【資源化する】

- 「家具のリサイクル展」を積極的に活用する。
- 不要になった本やおもちゃのリユース活動に参加・協力する。

テーマ② 緑と水辺の保全・創出

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

心地良さや豊かさを感じられるみなとの緑と水辺

- 人にも生きものにもやさしい緑や、水辺の散歩道、「泳げる海、お台場」を区民みんなでつくり、育むことで、生物多様性を実現し、暮らしの中に心地良さや豊かさを感じられ、訪れたい、住みたい／住み続けたいと思われる持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- マンションの屋上緑化は進まず、壁面・ベランダ緑化は普及していない。
- 道路に緑陰が少なく、舗装も透水性舗装でないため、非常に暑い。
- ビオトープには外来生物が繁殖し、適切に維持管理されていない。
- 生物多様性、エコロジカルネットワークの効果が分かりにくい。
- 水辺の散歩道は夏暑く、散歩しづらい。お年寄りや子どもが利用できない。
- お台場や運河の水質が向上していない。

取組の方向性

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

- (1) 区内の様々な場所で緑を増やす。
- (2) 区民・事業者・区が一体となって緑を守り、育てる。
- (3) 生物多様性を保全する。

【みなとの“水辺”と親しむ】

- (4) 水辺の散歩道等を活用して水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）。
- (5) 「泳げる海、お台場」を実現する。
- (6) 水の健全な循環をつくる。

具体的な事業

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

①まちの緑化推進(1)

- 道路や橋の緑化、学校のグラウンドの芝生化など、まちの様々な場所での緑化を推進する。
- 「ベランダ緑化ガイドライン」を作成し、緑化の基本パターンを検討・紹介して、普及啓発を図る。
- 「港区民間事業所・住宅設備等の環境配慮ガイドライン」を作成する。
- 夏季に緑陰を形成するよう、街路樹の適切な管理、新規植栽を行う。
- 高齢者が夏季に公園を散歩できるよう、ベンチやミスト、日よけとなる樹木を増やす。

②区民・事業者との連携・協働による緑の管理体制の構築(2)

- 植樹、メンテナンスを地域の人々が取り組めるよう、機会の提供や費用助成を行う。
- 区が設置した緑やオープンスペース、ビオトープなどを区民が管理・活用する仕組みをつくる。

③生物多様性の保全(3)

- 生物多様性やエコロジカルネットワークの現状や効果などを検証し、分かりやすく示す。
- 国等と連携して調査を実施し、ヒアリの拡散を阻止するための対策を実施する。
- 他の自治体（三多摩をはじめとした国内外）と連携して環境教育を推進する。

【みなとの“水辺”と親しむ】

④親水エリアの設定・構築運用(4)

- 水に親しめるモデル地区、パイロットエリアを設定し、親水公園を整備するなど、きれいな水に親しめる環境をつくる。
- スイングチェアやアスレチック、日よけを設置するなど、水辺で水と親しむ仕掛けを設けるとともに、水浄化装置を設置し、環境教育に活用する。
- 湧水の活用について検討する。

⑤「泳げる海、お台場」の推進(5)

- 運河に水浄化設備を設ける、お台場の海底のヘドロをきれいな砂と入れ替える、雨水等を吐き出すタイミングでお台場を海水フィルターで覆う運用とするなど、水質改善に向けて東京都に要請・提案を行う。
- 東京都と協議し、お台場を海水浴場としてオープンする日程を定め、これに向けた具体的な対策を立案し、進捗監視を行う体制を構築する。

⑥雨水浸透施設の整備(6)

- 公園や既存の建物・敷地の中庭等への雨水浸透施設の設置を促進する。
- 都市型浸水の防止のため、公園を雨水浸透型に変える。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

- ガイドラインを踏まえ、自宅や事業所等での緑化に取り組む。
- 行政との協働による公園緑化、外来種対策、生物多様性保全等の活動を行う。

【みなとの“水辺”と親しむ】

- 住民組織と行政が連携して、水辺の散歩道の清掃・維持活動を行う。
- 港区・東京都・住民連携組織共同で、お台場海水浴場推進協議会を設置する。

テーマ③ 気候変動への適応

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

気候変動に合わせた暮らしを実現するみなとの人とまち

- 区民の気候変動に備える意識と知識を高めるとともに、自然を活かして気候変動に耐えうる都市環境をつくることにより、安全・安心、快適に暮らすことができる持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- 現状及び今後予想される気候変動の影響を把握しきれていない。
- 気候変動により、真夏の生活面でのリスクが増大しているにも関わらず、適応策が普及していない。
- 気候変動リスクが正しく認識されておらず、防災や熱中症に対する適切な対策が取られていない。
- 真夏は暑すぎて外出できず、子どもたちも外遊びができない。
- 港区の宣伝・プロモーション効果を最大限活用すべきである。

取組の方向性

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

- (1) 気候変動と適応策に関する理解を深め、適応力を高める。
- (2) これまでに経験したことのない大雨等の災害に備える。
- (3) 熱中症リスクの高まりを認識し、適切な適応策を選択できる力をつける。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

- (4) 「風／水／緑」を利用してまちを涼しくする。
- (5) 取組効果を検証し、区内外に適応策の情報を発信する。

具体的な事業

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

①気候変動に関する調査と適応策の検討、情報発信(1)

- 現状及び今後予想される気候変動を調査・整理するとともに、適切な適応策について情報収集・検討する。その上で、こうした内容を情報発信し、区民の理解を深め、気候変動に備える意識を醸成する。
- 気候変動や日頃から取り組める適応策に関する講演会・勉強会を開催する。

②行動につながる、使いやすいハザードマップへの更新(2)

- 区民や防災組織等と連携し、経験したことがない大雨等の災害時に正しい行動がとれるよう、平易な言葉を使い、分かりやすいハザードマップへと更新・充実を図る。

③区内における暑さ指数の計測・情報発信(3)

- 区内各所（公園、通り、クールスポット等）で暑さ指数（WBGT）を計測し、安全・危険などの程度を分かりやすく情報発信する。

④熱中症対策に関する情報発信の充実(3)

- 真夏の屋内外での安全・快適な過ごし方等を紹介するガイドブックを作成
- 配布し、情報発信する。

⑤高齢者の熱中症死亡リスクの軽減(3)

- 既存の緊急通報システムに温度計を追加したり、セキュリティ会社等と連携したりして、高齢者の屋内での熱中症死亡対策を強化する。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

⑥ 運河の水等を利用したクールチャネルストリートの整備(4)

- 雨水や地下水、浄化した運河の水を利用して、散水だけでなく、舗装面に水を流す（NYハイラインのように）など、歩行空間をクールダウンする工夫をして、真夏でも安全・快適に歩行できる空間を整備する。

⑦ 緑のアーケードの整備(4)

- 公園や歩道等に藤棚のような緑のアーケードを整備して、日射を遮断して涼しく感じられる空間を創出する。

⑧ 「みなとクールスポット」の整備、効果検証(4)(5)

- 公園等の公共空間において、大学等と連携して「風／水／緑」を組み合わせた「みなとクールスポット」を実証実験的に整備する。その他、地下水循環型ベンチや地中熱自然冷房の設置を検討する。その際、区民や観光客に体感してもらうとともに、数値的に効果検証を行う。
- 「みなとクールスポット」の実証実験結果を全国に情報発信する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

- 気候変動や適応策に関心を持ち、積極的に情報収集するとともに、周りにも働きかける（情報発信する）。
- ハザードマップを活用し、災害発生時に適切な行動がとれるよう、地域でシミュレーション等を行い、地区防災計画を立案し、区に提案する。
- 打ち水や緑化などのイベント・取組に積極的に協力する。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

- SNS等を活用し、港区の取組を情報発信する（多言語）。
- 区が大学や研究機関と連携して実施するみなとクールスポットの整備や効果検証に参画する。

開催経過

第3グループ【環境・リサイクル分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月30日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・事務局紹介・グループ会議の進め方について・分野における現状と課題について・リーダー、サブリーダーの選出・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月16日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第1回グループ会議の振り返り・検討テーマ「ごみ問題・資源循環」について
第3回	令和元年10月28日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第2回グループ会議の振り返り・検討テーマ「ごみ問題・資源循環」について
第4回	令和元年11月12日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第3回グループ会議の振り返り・検討テーマ「緑と水辺の保全・創出」について
第5回	令和元年11月29日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第4回グループ会議の振り返り・検討テーマ「緑と水辺の保全・創出」について
第6回	令和元年12月10日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第5回グループ会議の振り返り・検討テーマ「気候変動への適応」について
第7回	令和元年12月24日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第6回グループ会議の振り返り・検討テーマ「気候変動への適応」について
第8回	令和2年1月23日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第7回グループ会議の振り返り・提言内容の確認について